

○宇野 裕委員 吉本先生との関連で聞かせていただきたいと思います。

今の入学者選抜の改善案っていうのがホームページに出ておまして、それをもとにちょっと質問をさせてもらいたいと思いますけども、吉本先生のお話とダブるかもしれせんけれど、御了解をいただきたいと思います。

改善の経緯のところこういうふう書いてあるんです。現行の入学者選抜は平成21年度選抜で7回目の実施となりますが、中学校の3学期の教育活動に影響がある、学力低下が懸念されるというところから平成20年4月に改善の素案を公表し、パブリックコメントなどで意見を伺うとともに協議会で審議を重ね、下記のと通りの改善案といたしましたということです。

改善の理念として特色ある入学者選抜理念の継承ということが書いてあります。それから、複数回の受検機会の保証と、この2つが改善の理念であるというふう書いてあるので、そうなのかなと思ってこの改善案をちょっと見させてもらいました。

この流れというのは、国のゆとり教育から学力重視への転換がそうさせてるのかなというふうに、今回の改善の裏にあるのかなと私は推測するんですけども、そうなんだろうかっていう質問、それが1つですね。

それから、改善ということですから、今までよりもさらによくならなければならないという前提だと思うんですけども、ちょっと心配な点が二、三ありますのでそれについても聞かせてください。この検査内容、現行の特色化選抜については1日かけてやると。それで、今回は、改善案は2日になってるんですけども、その初日の学力検査については県作成の統一問題でやるというふう書いてあるんですが——これ、50分の試験っていうことですね——これについては、今までは学校によっては先ほどお話ありましたように学校独自の問題をつくっている学校も50校ぐらいあるんですか——ということは、それまで自分で、学校で問題をつくっていた学校はこの県作成の統一問題に統一されてしまうということですね。そうすると、学校の独自性っていうのはどこに出てくるのかなっていうのが1つ疑問ですので、それについての——軸足が、いわゆる特色化に軸足を置いているのか、学力重視に軸足を置いているのか、ちょっとわからないと思います。その点についてお答えをいただきたいと。

それから、吉本先生からの指摘のとおり、この3月3日に——今、2月26日、いわゆる後期選抜という名前を変えるわけですけども、3月3日にそれを、後期選抜をやるということですけども、これも、3月3日にやって採点をして3月9日に発表するっていうことになると現場の先生方、大変なんじゃないかなっていう、その後のいろんな卒業式の準備だとか、今、お話ありましたようにそういう現場の混乱が懸念されるんですけど、その点の配慮があったのか、なかったのか、ちょっとお聞かせ願いたいというふうに思います。

それから、さらにもう1点はこの3月3日に試験を行ってさらにその試験を終わった後、その日に面接をすることもいいよっていうふうになってますよね。実際、それ、大変だと思うんですよね。試験が終わった後、その日、生徒を待機させて面接をする場合にはするということになっちゃうと学校によってはもうそれ面倒くさいからもう面接はやめようという判断をする学校も出てくるだろうし、本当は面接を翌日やりたくても、もう1日しかないので面接ができなくなってしまうというようなことにもなってしまうのではないかなというふうに思います。ですから、その辺のところの現場の混乱を予想しているのか、していないのか、ちょっとその辺もお答えいただきたい。

そうですね。それでまずお答えいただけますか。

○委員長（臼井正人君） 高岡指導課長。

○説明者（高岡指導課長） 学力向上、ゆとり路線の変更なのかということなんですけれども、確かに委員御指摘のように試験を受けないで、55校は学校独自問題をやっていたんですけれども、それ以外の検査で、例えば、特色ある入学選抜で合格しますと試験というものを経ないで高校に入ってしまう。やはりその辺が問題ではないかというのが、意見があったことは確かでございます。

学力と特色ある学校づくりとどっちに重きを置くのかという御指摘ですけれども、両方でございます。両方大事にして、吉本委員からも御指摘ありましたように特色ある入学選抜のいい点の理念は継承してまいりたい。かといって、学力をやはり向上、少しでも試験があるということで刺激を生徒に伝えるのも、やっぱりこれも私どもの責務かなというふうに考えております。

2点目の3月3日の採点で3月9日発表、これは大変なのではないか、現場への配慮はないのかということでございます。確かに高等学校の卒業式っていうのは3月6、7、8、9ぐらいに集中しておりますので、その間に採点及び発表準備、それから、卒業式という大きな行事をする場合は大変だと思います。高等学校には余り評判がよくない、不満も若干、伝わってきておりますけれども、中学校側のやっぱり授業をできるだけ確保したいという御意見等を尊重したわけなんです、今後、本年の12月ごろまでには平成23年度入試の日程を決めますので、一日、二日等は、日程についてはいろいろな御意見を聞きながら動くことも十分、日程については本年の12月ごろでございますのであり得るかと考えております。

3番目の面接、後期の選抜でございますが、面接したい学校、結構あるはずなんですけれども——神奈川県神田高校で問題になりましたけれども、あるはずなんですけれども、こんな日程じゃできないんじゃないかと、1日で5教科をやってっていうことで。とりあえず

は40分で5教科——ただ3月になりますと日も長くなりますので、若干、それもあります
が、職員の勤務時間の関係もご置きます。余り早く、例えば、子供たちを集めるわけにも
いかないかと思ひますけれども、10分ぐらひは——例えば、これは私のまだ考へ、あくま
でも案で置きますが、10分ぐらひ早く高等学校の受検会場に集めてみようやと、もしく
は各教科間の、今、休み時間が20分あるんですが、6割まで前期のほうで決まってしまう
ので、この間を15分にして面接をやりたい学校が十分時間とれるようにする案もある
など、今、考へて置きますので、面接をやりたいという学校は確かに多う置きますので、
その辺も対応できるようなよりよい案を、今後、細かく詰めていきたいと考へて置きます。
以上で置きます。

○委員長（臼井正人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 先ほどのちょっと質問の仕方がだめだったんでしょうか、いわゆる前期
選抜の試験、これは県作成の統一問題でやりなさいということになると独自の問題はもう
つくれないということになるでしょうか。

○委員長（臼井正人君） 高岡指導課長。

○説明者（高岡指導課長） 県で作成した問題は全員受けていただきますが、2日目に、
例えば、本校では英語と数学を例えば特化してもう少し本当の実力を見てみようという学
校は独自問題もつくれる余地というもの残して置きます。

○委員長（臼井正人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 それはちょっと——50分の県作成の統一問題をした後、さらにまた学科
試験をやりたい学校はやっていいですよってということなんですけど、それはちょっと受検
生に負担が大きいんじゃないかなというふうに思ふんですよね。でありますので、提案と
して、例えば、その県作成の統一問題をやる学校は、それは校長の判断でそれを採用して
もいいと、学校によっては独自の問題をやってもいいよと、まさにそれ、特色化じゃない
かなと思ふんですけども、そういう選択の幅を校長に与えておくべきではないかなという

ふうに思いますので、それについてもそういう余地があるのか、お答えをいただきたい。

それから、できればこれ、要望なんですけども——答えていただければ本当はありがたいんですが——その後期選抜の3月3日をできればもう二、三日、前倒しできないのかなっていうお願いなんですけど、その意気込みをちょっと、可能性があるかどうかをちょっとお聞かせ願いたいのと、遠くから中学生が電車を使ったり、あるいはバスを使ったりでその会場に行く場合に試験を終わった後、面接の時間があるわけなんで、面接が終わるともう夕方になって、例えば、天候が悪い場合に、例えば、9時試験開始時間を10時にせざるを得ないようなときに、なったときに、面接を予定してる学校はさらに1時間、夕方になってしまって、そういうトラブルも予想しなきゃいけないと思うんですね、天候のことを考えると。そうすると、やはり安全を考えればその後期選抜も今までどおり2日間にして、ちょっと前倒しをすれば問題が解決するんじゃないかなと、心配の種がなくなるような気がするんですけど、その辺の改善の余地があるのかどうか、お答えいただきたい。

○委員長（臼井正人君） 高岡指導課長。

○説明者（高岡指導課長） 前期選抜の、例えば現在、東京都の日比谷高校では東京都が用意した問題を使わないでやってるというのは確かにございます。ただ問題——例えば、かなりみんなができる問題と、それから良問で本当の実力が要る問題というものをいろいろつくることによってかなりいわゆる学力レベルが高い学校にも対応できるような問題を常に心がけているわけなんですけれども、それでできるだけ努力をして、2日目に、例えば、数学だけやるとか、英語だけやるとか、それは余地があるということで、これまでいろいろ何年間で討議してきました教育委員協議会等でもこの案を支持いただきました。きょう、教育長、報告をしていただきまして、来月の教育委員会会議で報告議案とさせていただきます。議決いただきましたら3月末には各中学校に通知させていただきます。現行の中学1年生はこのスタイルでいくよということで通知したいと、そのように考えております。

あと、もう二、三日、前倒しできないかということでございますけれども、後期選抜の3月3日なんですけれども、この日程の正式決定については先ほども申し上げましたが本年の12月ごろをめどに正式決定をいたしますので——失礼しました。今、報告議案と申しましたが、教育長報告ということで3月4日の定例教育委員会会議はさせていただくということで、御了承願いたいと思います。訂正させてください。

12月までに本年の、今、宇野委員から御指摘いただきましたけども、諸般の日程についてはまだ動かせる余地が少々ございます。その辺については、今後、御意見を伺いながら検討してまいりたいと思います。

あと、面接については前期選抜で2日とりますので、今までは前が1日、後ろが2日だったんですけども、試験が後期も2日にしますと、2日、2日でこれはまたなかなか大変な、生徒にも負担があるのかなというふうにも考えております。ただ、面接はやりたい学校はたくさんあると思います。それで、できるだけその例えば、何か不測の事態があった時間が後ろにずれたときという御心配もありますけども、万難、いろんな手配りをしながらこのような試験をとりあえず23年度からやってみて、また弊害等も出てくるようであればチェンジすることはやぶさかではないというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（臼井正人君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 それでは、最後に要望なんですけど、前期の、先ほどその試験の内容、統一試験ではなくて——それも採用する裁量もあるし、学校独自の試験ができ……、そういう裁量を校長に与えられるようなことも考慮の一端に入れていただきたいというのが要望です。

それと、やっぱり生徒の負担というものもよく考えていただきたいと。これ、要望ですのでよろしくお願いします。終わります。

委員長報告

○委員長（臼井正人君） 次に、特に委員長報告すべき事項がありましたら御発言願います。

（「なし」と呼ぶ者あり）